

図画・絵画部門

総評

今年は、応募作品は前回とほぼ同数でしたが、出品する側（特に、学校や団体）で厳選して応募している様子がうかがわれ、全体のレベルが一段と高くなりました。

さて、今回の審査の観点は、子どもが何を描きたいのか、何を伝えたいのかが明確に表現されていること、そして、絵を描くのは、指導者（先生や親）十子どもではなく、あくまでも子

ども十指導者で、子どもが先頭になって描いた絵であることの二点で、言いかえれば、子どもらしさが画面いっぱいに出ている絵ということになります。

年々、身近な生活の中からテーマを選んだ作品が増え、レベルも向上しているのはとても喜ばしいことです。次回も、優秀な作品が数多く寄せられることを期待します。

最優秀賞受賞作品

学校から見たふうけい

青森県八戸市立吹上小学校

四年 山本 由紀



サクラの花の色が、透明感があってとてもきれいです。木々の間に見え隠れする建物をいかに表現しようかという努力のあとも見られます。「サクラを見ている人物が描かれていれば、もっと楽しい絵になった」というのが大人の感覚ですが、それ以上に、自分の描きたいもの、そのものが明快に表現された子どもらしい作品。

優秀賞受賞作品

みんなごはんをたべる

奈良県斑鳩町立斑鳩小学校

一年 山下 貴広



「たくさん食べて大きくなるよ」というたくましさ
が画面いっぱいに感じられる
力強い作品。

夏休み

北海道苫小牧市立立新小学校 六年 赤塚 弘樹

どのページも手抜きがなく、誠実でしかも楽しい絵。人物以外のものにも目を向けて、文章を絵に表す工夫も加われば、さらに将来が楽しみ。



特別賞受賞作品

花のいろいろな絵

岐阜県春日村立春日小学校

六年 小林 智美

花を描くときに、花や葉にどのような色を使うとどのような感じになるかをいろいろな角度から研究して、それをレポート形式にまとめた作品です。「かげのかき方」「ハッパのうすい・こい」「花にあうバック」など、失敗を繰り返しながら自分で実際に描き、調べたのはすばらしいことです。



▲花にあうバック

干物を作る母

青森県三沢市立第一中学校 三年 前川原由利子

生活の場面からテーマを見つけ、構図もしっかりとまとめた完成度の高い作品。顔の表情、手、服のしわなどデッサン力も優れています。

